

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。	最終評価	・自ら課題を見つけさせるために、気づきが見込めるような発問を工夫し、児童の発言にしっかりと耳を傾け、的確な助言を与えられる授業が展開できた。
		・「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおきながら、児童にとって見通しのもてる授業設計と、授業のユニバーサルデザイン化をはかった授業改善に努める。		・各教科とも、児童が授業に見通しがもてるように、教師が授業のゴールをしっかりとち、簡潔に伝え、授業の過程で、「考える」「表現する」活動を取り入れる指導をした。
環境作り		・児童が夢中になって学びの対象に関わり、自分の考えをもてることで、安心して学べる環境作りに努める。		・教師が、児童が様々な事柄に興味をもてるように、幅広く投げかけ、感じとった自分の気持ちを自由に発表できる環境を作ることができた。
		・一人ひとりの児童がどれだけ安定しているかという居場所感のある学級経営を目指す。		・ふれあいアンケートを有効活用し、細やかな個別対応をすることができた。

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	<p>学臨時休業中に、読み書きの練習をゆっくり取り組んだため、ほぼ全員ができるようになったが、正しい筆順や形に気を付けて書くことについては個人差がある。</p> <p>学思いを伝えることには意欲的だが、相手の話を聞くことについては、経験を積ませ大きなことを聞き取れる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きができるようにするために、正しい文字の形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する必要がある。加えて、長音、促音、拗音、撥音、助詞の使い方や片仮名が正しく必要がある。 興味をもって聞くなど聞き取る力を身に付けていくため、大きなことを落とさないように聞くことができるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のリズム遊びや、聞き書きなど、言葉遊びを中心に習慣化して練習を積み重ねる。また、ノートや作文用紙に、短文作りや感想を記録する活動を多く取り入れる。 相手に伝わる伝え方、相手に伝わる聞き方を意識させ、話しやすい話題を設定しながら、ペアやグループ、サークルで対話する機会を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 短文づくりや、感想を記録する活動を継続して行った。また、漢字やカタカナの復習プリントや1年の学習をまとめたドリルを追加して練習を増やしたため、筆順等が改善できた。 対話する機会は、可能な限り確保した。進んで考えを伝え合うことで、対話した内容を、全体に伝える意識が高まった。相手の話を聞き取ろうとする姿勢も身に付いてきている。
	算数	<p>学指や具体物を頼りに計算する児童が少なからずいる。</p> <p>学演算決定の根拠を明確にできるなど、理解に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な表現を確実にするために、加法、減法が用いられる場面を式に表したり、式から想像できる場面を思い浮かべたりすることができるようにする必要がある。 数量感をさらに育てるために、その経験ができるような指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、算数で学習したことが使われている場面を探したり、簡単な問題を作ったり、式を場面のつながりを想像できるような活動を取り入れる。 増える、減る、比べるなどの量の変化を視覚的にも分かるように具体物や映像を使って学習する。 		<ul style="list-style-type: none"> 簡単な数式を提示し、問題を作ったり、問題を読んで図に表わしたり、演算決定力を育む活動を継続した。図に表わすことで、なぜそのような計算になるのか分かりやすく説明することもできるようになってきた。今後も、継続して効果が高められるようにする。 具体物（算数ブロック、お金、積み木、ブロック、色板など）を使った学習と動画・映像教材も取り入れ、視覚的に理解できるようにした。理解度が上がり、正答率もあがった。
2	国語	<p>学平仮名や片仮名については、正しい読み書きができるようになってきた。拗音や濁音については、個人差があり指導が必要である。</p> <p>学姿勢を正しくすること、掲示してある「聞き方名人」を意識することができており、聞く習慣が身に付いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きができるようにするために、正しい文字の形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する必要がある。 日常生活において、相手に自分の考えを的確に伝えるために、促音、拗音、片仮名が正しく読み書きをできるようにする必要がある。 実生活の場面において、分かりやすく伝えるために、「話す」の基本的な習慣とルールを身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルやノートを使い、正しい文字を正しい筆順で書くための練習を行う。 国語科に限らず、各教科等の指導をとおして、漢字、片仮名、促音、拗音の正しい使い方を指導していく。 スピーチを取り入れたり、話型を用いたりして指導を重ね、学級活動で自分の意見を言うことの大切さを伝えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルやノートを使い、正しい文字を正しい筆順で書くことを丁寧に指導したため、正しい読み書きを身に付けられた。今後は辞書を活用し、熟語としても知識を増やしていくことができるように学習の機会を設ける。 相手に自分の考えを的確に伝えるために、定期的に日記を書く活動を取り入れた。漢字、カタカナ、促音、拗音を正しく書くことを日常的に指導したが、促音、拗音を正しく使うことは、継続して指導する必要がある。 朝の会でスピーチを取り入れたり、話型を用いたりして指導を重ねることは継続して指導を重ねる。
	算数	<p>学様々な単元で、問題づくりに取り組むことで、問題文を注意して読む児童が増えた。加法や減法の計算は、個人差があり指導が必要である。</p> <p>学「どちらがおおい」「大きな数」「ながさ」「ひろさ」「かさ」の学習では、直接操作する活動を通して、比べることの理解が深まり、量感が育った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な表現を確実にするために、加法、減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする必要がある。 日常生活でも、さらに量感を育てるための経験ができるようにするために、操作の指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で文章題を作るなどして加法、減法が用いられる場面を想像したり、言語化したりして、実生活に結び付けた学習活動を多く取り入れる。 具体的な操作によって直接比べる体験活動を積み上げる。 		<ul style="list-style-type: none"> 加法、減法、乗法が用いられる場面の文章題を自分で作る活動を通して、数学的な表現が身に付いた。しかし、問題文を読み、式に表すことについては、実生活に結び付けながら今後も継続して指導していく必要がある。 4桁の数では、半具体物を使って実際にたくさんの物を数えたり、長さの学習ではものさしで身の回りの物の長さを測るなどの具体的な操作活動を取り入れ、量感を養った。今後も、操作活動を学習に取り入れる。

3	国語	<p>調新宿区学力調査の結果、全ての領域において目標値を上回った。区の平均正答率においては、「読むこと」は上回っているが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域は下回っている。</p> <p>調スピーチ等で「話す・聞く」能力を高めてきたが、区平均を下回っている。</p> <p>学既習漢字を用いて作文を書くことができない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めるために、話の中心に気を付けて聞いたり、話したりすることができるようにする必要がある。 相手や目的を意識しながら、経験したことや想像したことを表現する力を身に付けるために、自分の思いや考えを日常的に書く習慣を身に付ける必要がある。 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるために、既習漢字を用いて作文を書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 要点が何かを考えながらメモを取る活動を取り入れる。 作文や感想文など書く活動を取り入れる。 漢字練習の中で、既習漢字を用いた短文作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防に取り組みながら、国語や帰りの会で話し合いや発表の場を設けた。放送による全校朝会では、メモを取りながら話を聞くことを指導した。その結果、要点を意識して聞くことができるようになったが、今後も継続が必要である。 相手や目的を意識させながら日常的に作文や感想文を書く活動を取り入れた。若放課後補習で必要に応じて個別に指導した。その結果、書くことへの抵抗は減ったが、定着のために今後も日常的に書く活動を指導していく。 4・5月の休校の影響で既習漢字の定着に差があったが、放課後補習を行うことで、少しずつ差がなくなってきた。今後も既習漢字を用いた短文作りの指導をしていく。
	算数	<p>調新宿区学力調査の結果、「数と計算」は目標値を上回ったが、「量と測定」は目標値を下回った。</p> <p>調文章問題はできるようになってきた。しかし、「不等号」や「図」は具体物でないため、感覚的に想像することが難しく、目標値を下回った。</p> <p>学具体的な操作によって体験活動を積み上げ、量感が育った。数の感覚を養うことにはまだ課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現するために、ものさしを使った作図や長さや測る学習、水のかさの学習について定着させる必要がある。 具体物でないものに対して想像することができるようになるために、数を十や百を単位にしてみるなど、数の相対的な大きさについて理解する必要がある。 数に対する感覚を豊かにするために、数のまとまりに着目し、大きな数の比べ方や数え方を考え、日常生活に生かす指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で、東京ベーシック・ドリルやフォローアップワークシートを活用して、既習の量と測定問題を繰り返し行うことで定着を図る。 授業で、具体的な操作によって直接比べる体験活動を積み上げていく。 授業で、数の構成を丁寧に指導し、数の感覚を養っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数少数人数によるコース分けの中で、身の回りの物を使いながら、測定問題を確実に定着させることができた。今後も「量と測定」の問題を繰り返し指導していく。 既習内容を生かすことを繰り返し指導したり、具体的な操作によって直接比べる体験活動を行ったりすることで、感覚的に想像することができるようになった。今後も数の相対的な大きさが理解できるように指導していく。 コースに分けて数の構成を丁寧に指導することで数に対する感覚が養われ、理解度があがり、正答率があがった。今後も数の構成を丁寧に指導していく。
4	国語	<p>調昨年度の三年次の新宿区学力定着度調査では、全体的には、目標値・新宿区平均とも上回っていたが、領域別では、「話すこと・聞くこと」のみ目標値を下回った。この結果から、話の内容の要旨を読み取る技能の習得が不十分であったと結論付けられる。「作文」に関しては、目標値を10ポイント以上上回っていた。</p> <p>学自分の考えや意見を授業中に発表する姿が少ないように思われる。作文に関しては、文章を書く経験を多くさせてきた結果が、定着度調査に現れたといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えや意見と関連付けて、自分の意見を積極的に話す力を高めるために、要旨を正しく捉えようとして、自分の意見を積極的に話すことができるようにする必要がある。 自分の考えや意見を相手に伝えるために、語彙を増やす活動をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の教科に限定せず、全教科をとおして、自分の意見をノートやワークシートに書く指導をする。また、それを発表する機会を多く設ける。発表への自信をもたせるために、机間指導を行って、書いた意見を価値付けする。 漢字だけでなく、言葉やその意味など、語彙を増やす活動を増やす。そのために、ベーシック・ドリルと補助教材を活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する機会を意図的に増やしたことで、発言することへの抵抗が減少し、自分の考えを表現できているようになってきた。さらに表現能力を伸ばすために、引き続き発表する機会を意図的に設けていく。 漢字ドリルだけでなく、言葉や熟語の意味を考える補助プリントを使い指導した結果、漢語慣用語などの語彙が増え、筋道を立て話ができるようになった。今後も、文章読解と並行して、言葉・語句のプリントを用い指導していく。
	算数	<p>調昨年度の三年次の新宿区学力定着度調査では、すべての領域において、目標値・新宿区平均とも上回っていた。観点別では、「図形」の領域のポイントが非常に高かったことから、昨年度の取り組みが結果に表れたといえる。しかし、ポイントが60を下回る児童が15%いたことも明記しておく。</p> <p>学単元の内容を的確に把握できる多数の児童の中に、指示がないとノートを取ることもしないなど細かな支援を必要とする児童がわずかに存在している状態である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学力定着度調査から、学力の二極化がみられ、確実な学力の定着を図るため、単元でつまずきのある児童に対して、底上げする指導が必要である。 授業内容を的確に理解するために、児童の興味関心や分かりやすいポイントの提示が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルやフォローアップワークシートを活用して、どの単元のどの項目につまずいているのかを把握する。その後、つまずきを解消するために、放課後学習など補充学習を利用して指導する。 授業で、各グループの実態を踏まえた学習指導が行い、ICTを用いたり、大切なことをカードに書いたりするなど、視覚的に捉えやすいよう指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシック・ドリルや授業で見付かったつまずきを、補助プリントを解くことで解消していったり、放課後補習教室で細かく指導したりして、一つ一つの単元を習得しから進んできた。その結果、ワークテストにおける正答率が上がった。引き続き、ノートチェック、補助プリント使用、放課後補習教室での指導を行っていく。 ICTを毎日活用することで、視覚からも動き掛けることができ、しっかりと前向きに授業を聴くことができた。その結果、効率的な授業が進められ、振り返りをする時間が増えた。今後も、ICTを十分活用した指導をしていく。
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査の結果、すべての領域において目標値を上回った。しかし、言葉の学習においては区の平均を1.3ポイント下回っている。</p> <p>学漢字辞典の使い方やことわざ、文法など言語に関わる分野では個人差が見られる。学習活動において積極的に取り入れるなど、引き続き工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かりやすく、他者へ伝えるために、日頃から文法や、言葉を正しく使うことができるような活動を多く取り入れ、文法のまきを意識させることが必要である。 知識を深めていくために、ことわざに触れる機会を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において個々が説明する場面を設け、自分の考えを分かりやすく他者へと伝えるためには、文法を意識することが大切であると意識させる。 図書室の時間などにことわざの本などを紹介し、興味をもたせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防のため、グループでの話し合いは十分に行うことができなかったため、タブレット/パソコンのコミュニケーションツールを使って個々の考えを共有する場を設定した。その結果、相対自分の考えを文章で伝えることができるようになってきた。今後もICTを活用して考えを伝える際にも、相手を意識することが重要だということに気付けるよう指導をしていく。 言葉に関する単元では、辞書を使って調べる活動を行うことができた。今後も自分で語彙を調べる習慣を身に付ける指導を継続する。

	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査の結果、全領域において目標値も上回り、区の平均正答率も上回った。図形の領域において個人差が見られた。</p> <p>学 図形に関する問題では、正答率が五割程度であった。四角形の対角線の特徴を理解し、ひし形の作図ができるようにするとよい。</p>	<p>理由付けをしながら、説明できるようになるために、図形の種類によって、辺や頂点の数が異なりを理解できるようにする必要がある。</p> <p>確実な技能を身に付けるために、三角定規やコンパスを用いた作図の順序や方法を定着させる必要がある。</p>	<p>授業で、実際に具体物を操作することによって、図形の特徴について考えざる活動に取り組みながら、感覚を養う。</p> <p>東京ベーシック・ドリルやフォローアップワークシートを活用する等して、作図をはじめとした図形領域の定着率を向上させる。</p>	<p>ICT機器を使って、図形を視覚的に捉えさせることができた。また、作図の際には手順を確認しながら、作図の方法を獲得させることができた。その結果、図形への苦手意識が減少したことや、興味や関心を高めた児童が多くなったというふり返りが多く見られている。今後も、視覚的に捉えさせながら具体物を操作させたり、作図させたりする活動を充実させ、興味、関心を高めていきたい。</p> <p>新宿区学力調査では、図形領域の定着率が全国、区の定着率よりも高い結果となった。他領域と比べても、大きく下回ることもなかった。ただ、個々の定着率に注目すると、図形に対して苦手意識をもっている子もいるので、今後も授業改善の工夫をすると共に、個に応じた手立ても充実させていきたい。</p>
6	国語	<p>調 全体的に平均付近の結果ではあるが、自分の意見を書く問題について、無答の児童の割合が高い。</p> <p>調 領域別では、特に「話すこと・聞くこと」が区の平均点を大きく下回っている。学習に対する意欲の低さが一つの要因と考えられる。</p> <p>学 修飾語、特にどの語にかかっているかという連用修飾語の理解を深める必要がある。</p>	<p>自分の考えを書くことについては、まだ十分できてはいない。</p> <p>自分の考えをもつことができるようにするため、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えるような指導が必要である。</p> <p>問題を確実に解けるようにするために、問題の意味が分からない部分を無くし、最後まで問題に粘り強く取り組めるようにする必要がある。</p>	<p>自分の考えを、字数を制限して書く活動に取り組ませる。</p> <p>言葉の力を継続的に高めるために、辞書を活用した調べ学習や、短文作りなどで、身近に使う経験を積ませる。</p> <p>聞き返したり、聞いたことを友達に伝える活動をしたりして、相手が言いたいことは何か考えて聞く態度を養うことで話を理解する力を高めることで、問題の意味理解も深まるような指導を行う。</p>	<p>説明的文章を学習する際、字数を指定して要旨や要約をさせたことで、文章から必要なことを抜き出す力が付いてきた。</p> <p>分からない言葉について、辞書を使って調べたり、故事成語や四字熟語に関する本に親しませたりすることで、曖昧だった意味や文中での使い方を理解することができた。まだ日常の中で使うまでには至っていないので、作文やノート指導の中で継続して使わせることが必要である。</p> <p>話し合い活動に取り組む機会をなかなかもつことのできない一年間だったが、聞き手と話し手を分けて落ち着いて話を聞く学習に取り組んだり、理解したことや考えたことをノートにまとめる時間を取ったりすることで、自分の意見を書いたり発表したりできる子が増えた。</p>
	算数	<p>調 全体として区や前年度の平均点を大きく下回っている。A層も多いが、C、D層も多い傾向がある。</p> <p>調 基礎問題については、目標値よりも4ポイント高いが、応用問題については、目標値よりも3ポイント低い。</p> <p>調 領域別では、分数のたし算・ひき算、図形について目標値を大きく下回っている。</p> <p>調 国語に比べ、算数への関心・意欲・態度の数値が区の平均よりも約6ポイント下回っている。</p> <p>学 児童の実態として、基礎基本の習得に重点をおいたためと考えられる。</p>	<p>基礎基本の習熟を図るために、応用問題についても重点をおく必要がある。</p> <p>数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に捉え、検討してより良いものを求めて粘り強く考える態度・数学の良さに気付くために、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を高めていく必要がある。</p> <p>学びに向かう力の向上のために、数学的なよさを価値付けて、日常生活での場面を学習材として取り入れた授業を行う必要がある。</p>	<p>東京ベーシック・ドリルやフォローアップワークシートを活用し、課題のある領域の定着率を高める。</p> <p>数の仕組みや図形の基礎を学ぶ際は、自分達で公式を作ったり、友達の考えを比較して考えたりする活動を取り入れる。また、学習したことを友達に伝える活動を取り入れることで定着を図る。</p> <p>日常の事象から算数の問題を見いだして解決し結果を確認したり、日常生活などに活かしたりする活動を取り入れることで児童の関心意欲を高め、「ワクワク・ドキドキ」するような授業展開を行っていく。</p>	<p>6年間の復習を適宜したことで、後期取り組んだ東京ベーシック・ドリルで満点を取れた児童前期より30%増えた。</p> <p>問題の解き方や考え方を説明させる際、別の用紙に一つずつ書かせ、掲示した。振り返りにも他の人の考えの違いやよさに気付く記述が多く見られるようになったので、良い気付きを評価し、子どもたちに返していく指導が必要である。</p> <p>「データの活用」の単元では、既習事項から様々な見方・考え方をし、活発に意見交換することができた。日常の出来事に対しても、他の可能性もなかったか考えて結論を導き出そうとする姿が見られるようになってきた。</p>
	音楽	<p>学 概ね課題に対して、前向きに取り組んでいる。</p> <p>学 音楽活動の中で自分の考えや思いを表現したり、協力して音楽活動したりする機会が不足している。</p>	<p>曲想と音楽の構造の関わりに気付き、音楽を聴いたり、表現を工夫したりすることに課題がある。</p> <p>感染防止対策をしながら、児童の思いや願いを受け止め、音楽活動の幅を広げる必要がある。</p>	<p>音楽作りや鑑賞などの音楽活動を通して、音楽の構造についての知識、理解を深め、曲想との関わりに気付くことができるようにする。</p> <p>学習環境を整え、児童が主体的に音楽活動に取り組み、自分の考えや思いを生かして、表現を工夫することができるようにする。</p>	<p>音楽の構造やしくみ、要素と関連付けて、音楽作りや鑑賞などの音楽活動を行うために、思考ツール等のワークシートを工夫したことで、児童の理解が深まった。次年度も継続していく。</p> <p>箏、打楽器、弦楽器などの専門家に授業に入ってもらうことなど学習環境を整えたことで、児童の表現への意欲が高まり、表現を工夫する児童が増えた。次年度も必要に応じて専門家に授業に入ってもらい、児童の表現への意欲を高めることで技能も高まるようにしていく。</p>
	図工	<p>学 課題には、前向きに取り組んでいる。失敗を気にしたり、製作途中でやり直しをしようしたり、自分の作品に自信がもてない様子が見られた。</p> <p>学 休校中の課題にも前向きに取り組んでおり、昨年度の展覧会の成果を感じる。自分の思いを伝え合ったり、他者の表現を認め合ったりする姿も見られた。</p>	<p>自分の感覚や行為を通して、新しい価値を見付け出し柔軟に創り出していくことに慣れていく必要がある。</p> <p>コロナ禍であるが、可能な限り、児童同士の関わり合いを深める造形活動を取り入れ、児童の主体性や寛容性に繋げる必要がある。</p>	<p>お互いの作品を見合う場を適宜取り入れ、形や色、思いの違いなどを認め合える態度を育成する。</p> <p>児童が主体的に造形的な見方や考え方を働かせられるように、思考するポイントを伝えたり提示したりして、自分の思いから創り出す楽しさを実感できる題材の工夫をする。</p>	<p>コロナ禍により、親密な対話は難しかったが、短時間ではある鑑賞し合う場を適宜取り入れることができた。学年によって実施に軽重があったので、次年度の課題とする。次年度は短時間でも活動の経過や作品を見合ったり、振り返りをしたりする場を確保できるようにしていく。</p> <p>引き続き、児童の主体性を発揮できるよう、造形的な見方、考え方、思考するポイントを伝えたり提示したりしていく。</p>

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況 学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況